

## 研究のまとめ

松江市立忌部小学校 3年1組実践

報告者 橘 浩明

1 単元名 テニピン

2 単元の目標

- 基本的なボール操作と、ボールを操作できる位置に体を移動する動きをすることができる。  
(知識及び技能)
- ルールを工夫したり、簡単な作戦を選んだりして、友達に伝えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動をすることができることができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

3, 4 省略

5 授業の実際

### 【視点①】

なりたい姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追求

☆「できそう」「できた」が連続するための用具や場の工夫

- ・毎時間同じペア、グループで活動を行った。
- ・高さ50cmほどの多目的支柱ネットを活用してラリーなどを行った。
- ・不足分はカラーコーンやトラバーなどを使用し、ネットに見立てて行った。
- ・コート of 広さを示すため、玉入れ用の球を等間隔に並べた。
- ・段ボールでラケットを自作し、「慣れ」に応じてラケットの大きさを変えて(小さくして)いった。
- ・ラリーゲームでは、少しずつ目標回数を上げていった。目標回数を設定する際には、前時の記録を参考にした。



### 【視点②】

なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求

☆スモールステップを意識した授業構成

- ・ボールをラケットの上で打ち続けるゲームやラリーゲーム等を毎時間の始めに行った。
- ・ボールを追いかける、ラケットでの操作性を高めるため、個でボールに触る時間を確保した。
- ・入れ替わりを意識する活動の際には、ボールを転がす→ボールを一度、キャッチする→ボールを転がすといった活動を行なった。
- ・狙ったところへボールを打つためフープなどを使用し、ボールを打つ練習を行った。

### 【視点③】

なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追求

☆かかわりを豊かにし、思考を深める言語活動の充実

- ・児童のお手本から、ボールを打つときの立ち位置や相手が打ちやすい打ち方を全体で考

- え、キーワードを出した。(山なりのボール・ボールを打つ時の立ち位置など)
- ・その後、ペアの位置の入れ替わり方、ボールと自分の位置関係等を意識することを話し合った。

## 6. 成果と課題

### 【視点①】

毎時間、同じペアやグループで活動を行った。

- 「おいしい。」「今の上手!」「頑張れ頑張れ!」などの前向きな言葉かけや、「もっと優しく打つといいよ。」「ボールをよく見て!」など継続的にみているからこそできるアドバイスが自然と聞かれるようになった。

ラリーゲームでは、少しずつ目標回数を上げていった。目標回数を設定する際には、前時の記録を参考にした。

- いつも同じペアで単元の始めのゲームを行ったことで、「前時よりも記録が伸びた。良くなった。」という実感を得ることができ、学習に進んで取り組む姿が見られた。
- ペアを変えないことでお互いに安心感が生まれた。

段ボールでラケットを自作し、「慣れ」に応じてラケットの大きさを変えて(小さくして)いった。

- 自作のラケットを使用することで、特別感が生まれ、より親しみながら学習することができた。

### 【視点②】

スモールステップを意識した目標の設定を行った。

- 初めの目標が全員がクリアできるものだったことで、全員が「できた!」と感じ、さらに記録を伸ばすためにはどうしたらよいか意識しながら運動に取り組むきっかけとなった。
- 「出来なかったことができるようになった。」「(前時より)上手くできた。」といった声が多く聞かれた。

### 【視点③】

児童のお手本から、ボールを打つときの立ち位置や相手が打ちやすい打ち方を全体で考え、キーワードを出した。

- 児童のお手本からポイントを児童自身で考えたことで、より意識して運動することができた。
- 体育以外の授業のグループ活動でも、前向きな発言が多く聞かれるようになった。